

2017年6月27-30日でハンガリーにて開催された Tetrahedron Symposium へ参加してきました。雑誌としても知られているように Elsevier 主催の国際学会であります。規模としては小さいながらも、B. L. Feringa 教授を筆頭に名の知れた研究者達が講演をするといった中身は非常に豪華な学会でありました。本学会の議題は有機化学、創薬化学と生物化学であり、ポスターの内容は多岐にわたっており見て飽きない時間を過ごすことができました。自身の合成した化合物の今後の使い道を知りたがる人が多かったのが印象として残っています。しかしながら、自身の研究内容である不斉合成をメインにした研究はあまり見受けられなかった点が少し残念でありました。個人的に印象に残った内容が中国の Shi 教授の研究で添加剤の有無によって反応点が増える不斉合成でした。DFT 計算を用いて理論の裏づけをきちんととっており、説得力がありました。どういった DFT 計算を行えば良いのか具体的な指標を得ることができましたので、自身の研究にも応用していきたいと思いました。

ハンガリーの町から感じたことは「人生を通して住みやすい町だ」ということです。そんなハンガリーには日本からは直接行くことができず、乗り継ぎが必要となります。しかし、この乗り継ぎの手間を差し引いてもハンガリーへ行く価値は十分あると思います。首都ブダペストの外観として石造りの道路に、赤い三角柱の屋根がありよく想像する「The 中世ヨーロッパ」を如実に表した場所であります(左)。人が少ないこともあり日本のような混雑した中を移動するなんてことはありませんでしたし、バスやトロリーが充実しているため観光地間の移動がとてもスムーズに行きました。あくせくした感じが全く感じられない良い場所でありました。ハンガリー料理として、煮込み料理とパプリカを基調とした味付けが特徴です。名前は忘れましたがパンの中に伝統的な豚肉と野菜の煮込み料理が入っています(右)。とにかく量も多く質とともに満足することができました。



18th Tetrahedron Symposium およびハンガリーの報告は以上になります。次回行くとしたらその国の背景をきちんと知ってから、行きたいと思います。